

# コロナ禍における 特別活動の在り方Ⅱ



札幌市特別活動研究会

令和2年9月

# 特別活動で大切にしたいこと

## 自主的、実践的な活動である

特別活動の前提条件は、「**自主的、実践的な活動**」であるということです。つまり、教師の指示によってやられる活動とは異なり、よりよい生活や人間関係を築いていくために、自分たちで考え、判断し、生活上の諸問題などを解決していく活動なのです。

子どもたちが自主的に取り組む集団活動です



## 特別活動の特質

特別活動は、「**なすことによって学ぶ**」を方法原理としています。様々な集団活動の中で、実践的に学ぶことを通して、特別活動で育てたい資質・能力を育むことが大切なのです。

特別活動は、学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の4つの内容で構成されています。この中で、学級活動(1)の「学級や学校における生活づくりへの参画」・児童会活動・クラブ活動は、「自主的、実践的な活動」であるだけではなく「**自発的、自治的活動**」でもあります。教師が支える側に回り、「子どもたちが自分たちで話し合っ解決する」という体験を通した学びを大切にすることが重要です。

## 指導する上で重要な3つの視点とは？

資質・能力の中に3つの視点が入っています



「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力における重要な要素は、「**人間関係形成**」「**社会参画**」「**自己実現**」の3つの視点です。子どもたちが集団活動に取り組む中で、この3つの視点を踏まえて指導にあたることが大切です。

## 様々な集団活動を通して...

多様な他者と協働して取り組む実践的な態度を育成するためには、**様々な集団活動**を通して「集団が変わっても発揮することができる汎用的な資質・能力」を育んでいくことが大切です。

- 人間関係形成…集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成する視点
- 社会参画…よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し、様々な問題を主体的に解決しようとする視点
- 自己実現…現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点

## 特別活動における見方・考え方とは？

特別活動において深い学びにするためには、**集団や社会の形成者としての見方・考え方**を働かせることが必要です。

見方・考え方を働かせながら取り組みます



### 【集団や社会の形成者としての見方・考え方】

各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けること

# 学習発表会の取り組み方

## 3密の中での劇の在り方

文化的行事のねらいは、「平素の学習活動の成果を発表し、(中略)文化や芸術に親しんだりする」なので、「普段の授業を保護者に見てもらえばよいのかな。」と考えてしまうかもしれませんが、特別活動の特質である**自主的、実践的な活動**としての取組にする必要があります。学習発表会は、教科の授業参観とは異なるのです。

集団活動として実践していくことが必要です



## 全校又は学年での集団活動

学校行事は、「**全校又は学年**」という**大きな集団**を単位として行われる活動です。学習発表会では、大きな集団での自主的、実践的な集団活動に協力し合って取り組み、よりよい人間関係を築いていくことをねらいとしています。

○ソーシャルディスタンスを守った劇

※密にならないようにするとともに、オーバーアクションで演技したり、複数人で同じ演技をしたりして観客に伝わりやすくする。

○録音した音声を活用して演技する劇

○映像と組み合わせた劇

○劇を録画して上映する(練習風景も含めた内容にすることも可能である)

※ビデオ編集を請け負ってくれる撮影業者もある。



どうすればできるかを考えることが大切です

## 「こうすればできる」と工夫する

コロナ禍において、例年と同じ取り組み方はできませんが、「**ねらいや育てたい力**」をはっきりさせ、取り組み時数や発表時間の**圧縮、感染防止策**を図りながらできそうな表現活動をつくり出していくことが大切です。

## 役割意識を育てていく

学習発表会の取組で大切にしたいのは、「目的の実現のために自分ができることは何か」という**役割意識**を育てることです。例えば30分間の劇を行う場合、子どもたちに「**自分の出番は何分間ですか**」と問いかけることにより、役割意識の意味を伝えることができます。舞台に立っている時間は5分間かもしれませんが、「協力して劇をつくり上げる」という目的の実現のために活動している時間は、30分間です。

○体育館で実施する場合、換気に努め、参観者が「密」にならないようにする。全学年が一堂に会することができない場合は、テレビ視聴やペア学年のみ体育館での参観等とする。

○感染状況によっては、学年ごとの発表を映像や音声によって校内放送で流すなど、柔軟に対応する。

○歌唱の場合は、同一方向を向き、一定の距離を保つようにする。また、向かい合っでの発声においても、一定の距離を保ち、回数や時間を絞るなどして対応する。

○練習は、小グループやパートごとを基本とし、全員で集まって練習する機会を減らす。

○保護者等の参観者の入れ替え時に「保護者席の消毒」が必要になるが、次に発表する学年の保護者に体育館入口で除菌シートを渡し、自分が座る座席を拭いてもらうようにする。

# 卒業式への取り組み方



儀式的行事のねらいは、「学校生活に有意義な変化や折り返し目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機づけとなるようにすること」とあり、本来は全校の児童、教職員が一堂に会して行う教育活動です。

全校でどのように取り組むかを考えることが大切です

これまでの卒業式は

- 全学年の参加
- 在校生、卒業生の呼びかけ
- 在校生、卒業生の合唱
- 全校による合唱
- 入退場曲の演奏

例えば、コロナ禍での卒業式は

- 卒業生と保護者のみの参列
- ソーシャルディスタンスをとった座席
- 呼びかけ、合唱の自粛
- 録音による入退場曲の演奏

これまでは、儀式的行事にどのように参加するとよいか、という指導が中心

卒業式に参列できない状況下では**卒業のお祝いの気持ちをどのように伝えるか**、という指導に

## 卒業に向けての思いをお互いにどう伝えるか



どのように卒業生を祝うか、学級や学年で相談し、児童の自主的な活動につなげていく活動が展開できます。

式練習の時数が大幅に精選できそうです。子どもたちの主体的な動きのために時間を有効に活用させたいものです！

在校生から6年生へ

- 呼びかけを自分たちで作成し、録音する
- メッセージを伝える場を設定する(ミニ集会)
- 手紙や寄せ書きにして届ける
- 校内装飾にメッセージを添える
- 階段の横長の垂直の部分に贈る言葉をはる

これまでの「**与えられた活動への参加**」から

**「自分たちのアイディアを生かしたお祝いの形」を生み出すチャンスとなる。**

6年生から在校生へ

- メッセージを自分たちで作成し、校内放送で流す
  - 学級訪問でメッセージを伝える
  - 楽しかった思い出や伝えたい想いを手紙に残す
- 卒業式や卒業を祝う会で伝えてきた思いを別の形で伝えるにはどうしたらよいか、「自分たちのアイディアを生かしたお礼の形」を生み出すチャンスとなる。**

# クラブ活動の3つの内容

## クラブ活動の目標

異年齢の児童同士で協力し、共通の興味・関心を追求する集団活動の計画を立てて運営することに自主的・実践的に取り組むことを通して、個性の伸長を図りながら、特別活動で育みたい資質・能力を育成することを目指します。

このコロナ禍では、クラブ活動の回数や設置クラブの内容・数を変更しながらも取り組んでいることと思えます。来年度の活動づくりに向け、改めてクラブ活動について確認したいと思えます。

※クラブ活動で大切にしたいこと

- ①共通の興味・関心を追求する ②自分たちで運営する ③人間関係を深める

## 1 クラブ活動の組織づくりとクラブ活動の計画や運営

児童が活動計画を立て、役割を分担し協力して運営に当たること。

### ☆クラブの設置について

- ・児童が設置したいクラブを調査する。
- ・環境（職員体制・設備・費用等）を考慮する。

### ☆異年齢の児童の関わりが生まれる

- ・4～6年生が所属する。
- ・構成員の人数を整える。



## 2 クラブを楽しむ活動

異なる学年の児童と協力し、創意工夫を生かしながら共通の興味・関心を追求すること。

### ☆自分たちで進める

- ・活動計画や役割の分担を決定する。
- ・常時活動の基本的な流れを策定する。

### ※部員をいくつかのグループに分けて、「部長や副部長と一緒に運営する役割」を担当する。

### ☆「もっとみんなが楽しめる・仲よくなれる」工夫

- ・定期的に活動を見直す。
- ・短期の活動計画を立てる。

### ※毎回の活動で『取組カード』を使い、「目標をもつ」「振り返る」場を設定し、達成感や満足感を強く味わえるようにする。



## 3 クラブの成果の発表

活動の成果についてクラブの成員の発意・発想を生かし、協力して全校の児童や地域の人々に発表すること。

### ☆クラブのよさが伝わる発表を

- ・クラブ活動の楽しさや成果が伝わる。
- ・来年のクラブ活動が楽しみになる。

### ☆クラブ発表の方法

- ・ステージ・掲示・放送（ビデオ・音声）での発表
- ・クラブ見学会やクラブ体験会を行う。

### ※給食時間を活用し「クラブ活動紹介」をTV放送で実施する。

### ※3年生（学級ごとにまとめて見学）のクラブ見学を実施する。

### ☆活動の振り返り（クラブノート等に記録）

- ・クラブ活動を通しての成長と課題
- ・次年度に引き継ぎたいこと



# 今だからこそ やってみよう学級会

## ～自分たちで楽しい集団生活をつくる力を高める～

### コロナ禍の 条件を整理 して

コロナ禍、学級活動においても子どもたちの自主的・実践的な態度を育むためには、「何ができるのか」「何ができないのか」を教師が整理します。整理したことは、話し合いや活動の枠(条件)として提示して、**子どもたちと一緒に**工夫した活動づくりをしていくことが大切です。

### 係活動 では

係活動は、子どもたちがクラスみんなで楽しめる活動を工夫してつくり出します。コロナ禍で係活動ができないというのは間違いです。教師が活動の枠を提示し、その枠の中で**「どんな活動ならみんなに楽しんでもらえそうか」「クラスがよりよい場所になるのか」**を子どもたちと考え、自主的、実践的な活動を促していき、所属意識や相手意識を高めていきます。



**「みんなと一緒に楽しみたい」**  
をもとに活動を創り出していきます。

### 議題名『後期、係活動をレベルアップしよう』

2学期のスタートや2期4節の節目などで実施することも可能

### 学級会の前に (事前の活動)

○事前に、係ごとに前期の係活動を振り返っておく。

#### <決まっていること> (条件)

- 【係成立の条件】3人以上  
(特定の係に希望者が多い場合は、人数を調整)
- 【活動の条件】
- ・休み時間等で定期的に活動を続けられるもの
- ・みんなのために工夫した活動を続けられるもの  
(「密」を防ぐことは、日常生活「新しい生活様式」の考え方に沿って行うことも確認)

振り返りの視点を明確にして、後期の係活動につなげていけるようにします。  
○前期のこの活動は継続したい  
○こんな活動もやりたかった



#### クイズ係

- ・2年1組三択クイズ
- ・帰りの会3問クイズ
- ばくだんゲーム & サルトゾ エィチャー

#### 本読み係

- ・リクエストによる読み聞かせ
- シリーズや作者リレーの読み聞かせ

#### 係活動と当番活動の違い

**当番活動**：学級生活に必要な活動

**係活動**：みんなが楽しい、過ごしやすいを生み出す工夫した活動

○計画委員会が中心になって、学級会を進行します。

低学年や学級会の経験の少ない学級では、教師がサポートします。

### 話し合うこと① 後期の係活動を決めよう。

【出し合う】 ○前期の係活動をもとに、さらに加えたい活動を出し合います。

【くらべ合う・まとめる】 ○(学級の人数に合わせて)適度な数になるよう、係の数を調整し、合意形成します。



思い出写真係

音楽係



ダンス係

・係活動や一か月の思い出を写真に残していきたいな。

・どちらも曲をかけて行うから、一緒にしてもいいかな。

## 学級会 (本時)

### 話し合うこと② 役割を分担しよう。

・ぬりえ係の人が少ないから、私が移動してもいいかな。



### 話し合うこと③ もっと楽しくなる工夫を考えよう。

【出し合う】 ○各係にむけた工夫と全体に活かせる工夫を整理します。

【くらべ合う・まとめる】 ○係に分かれ、出された工夫をもとに活動の計画。

遊び係

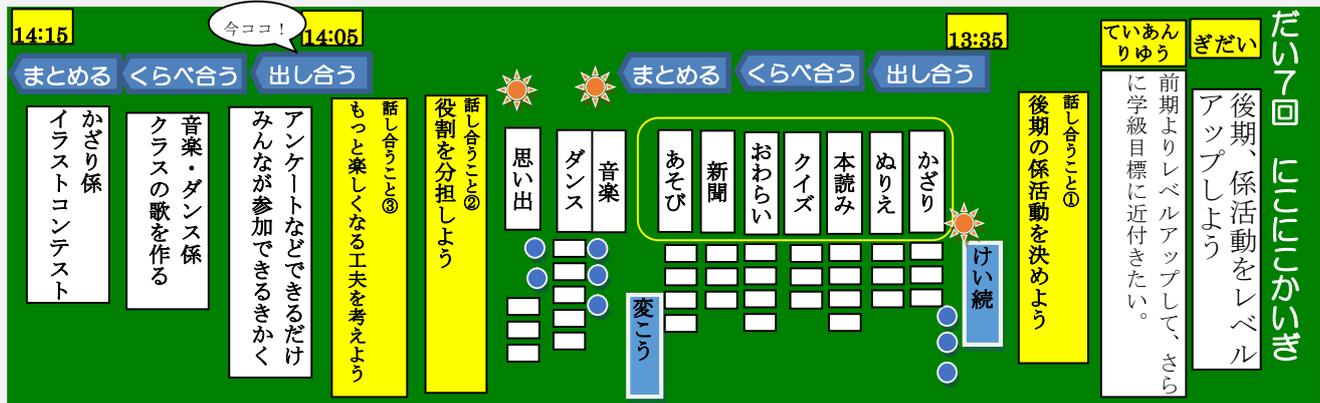
○アンケートをとって、週に1回の遊びを決める。

お笑い係

○みんなで参加型のお笑いを考える。

新聞係

○新聞に載せる4コマを募集する。



## 実践・振り返り (事後の活動)

○1週間～2週間程度の活動予定をカレンダーに書き込み、継続的な活動にする。



みんなが参加できる企画にするととっても楽しいな。私たちの係でもみんなが参加できる工夫を考えてみたいな。



全体で共有したことを「真似る」⇒「よりよい方法を考える」⇒「実践する」ことで、自主的、実践的な活動になるように関わっていきます。係活動を通して積み上げて身に付けた力を委員会や縦割り活動につなげていきます。

# 今だからこそ やってみよう学級会

## ～自分たちで楽しい集団生活をつくる力を高める～

「これなら  
できる」を  
生み出す

コロナ禍で集団活動ができないのではなく、「これならできる」を、**教師も子どもたちと一緒に**知恵を出し合って活動を工夫していく姿勢が大切です。ともに活動をつくり上げる過程で、子どもたちが自分たちの力で創意工夫する力や自主的・実践的な態度が育まれていきます。



学級会  
では



学級目標の達成に向けて、具体的な活動を決めるときは学級会を開きます。学級会の中で、様々な見方・考え方を共感的に理解し合い、折り合いをつけて**合意形成**を図る過程で、学級として目指す姿や大切にしたい価値を共有していくことができます。

「**自分もよくて、みんなもよい**」  
をもとに話し合って決めていきます。

### 議題名「1年生と全員遊びをしよう」

○事前に、自分たちでいろいろな活動を体験しておきます。

<決まっていること>

- 【いつ】9月◇日・☆日の2回の中休み
- 【場所】グラウンド・体育館（広い特別教室）
- ※それぞれの学級を2グループに分けて、グループごとに同じ活動をすることも考えられます。

事前に自分たちが体験しておくことで、学級会で**体験を根拠**に語る子どもたちの姿が生まれます。

学級会の前に  
(事前の活動)

長なわくぐり  
を伝えよう

サイレントジェス  
チャーquiz

コーンタッチ  
リレー

ルールを工  
夫して「で  
きる」活動

1mはなれて  
ぼくだんゲーム

しっぽとり

全身じゃんけん  
大会リレー



学級会  
(本時)

○計画委員会が中心になって、学級会を進行します。

【提案理由】4月に入学した1年生と、1学期は一緒に遊ぶことができている。1年生ともっと仲良くなりたい・1年生に〇〇小学校の楽しさや自分たちのことをよく知ってほしいので、まずは全員遊びをやっていきたい。ルールを工夫して、できる活動を考えたい。

〇年生



話し合うこと① やることを決めよう。

長なわくぐりを伝えよう

- ・〇〇小のなわとび大会に向けて、コツを伝えられる。
- ・できるようになったら、1年生も、自分たちもうれしい。

サイレントジェスチャークイズ

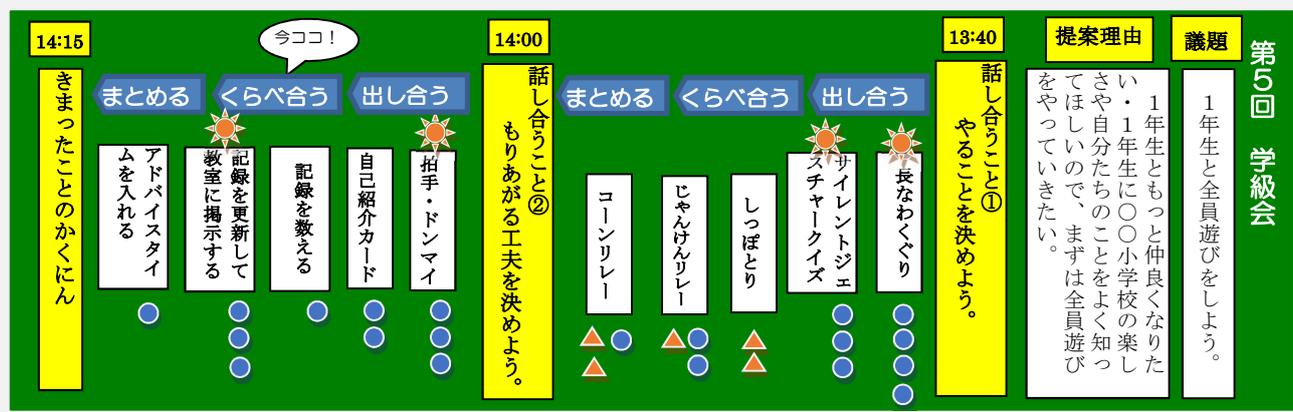
- ・〇〇小の行事をクイズに出して、知ってもらえる。
- ・自分たちのユーモアも伝えられる。

話し合うこと② もりあがる工夫を決めよう。

記録を6年生みんなで数える。

とべたら拍手、失敗したら「ドンマイ」の声をかける。

記録を更新して、教室に掲示する。



実践・振り返り  
(事後の活動)

○活動の成果・課題を振り返り、次の活動につなげていきます。



1年生が長なわに入るタイミングを分かってくれて、うれしかった。自分の名前も覚えてくれたし、次も私たちが1年生を楽しませる活動をしていきたいな。

ジェスチャークイズで、1年生が笑顔になってくれた。ちょっと恥ずかしかったけれど、自分たちが力を合わせて1年生を笑わせることによって、クラスの仲間とも仲良くなれたように感じた。

**みんなで決めたことは、必ずみんなでやる。**もし、うまくいかないことがあったら、また、みんなで話し合いをして、改善していくように関わっていきましょう。活動を継続することによって、活動の質がレベルアップしていきます。



# 学級活動(2)と(3)の違いについて

学級活動(3)では自らの夢に向かって目標を立て、自己実現の過程を見つめ直すことで、自己肯定感を高める指導が大切です。



学級活動(2)と(3)の1時間の授業の流れは、ともに「つかむ」「さぐる」「見つける」「決める」と同じな流れです。しかし、次のような違いがあります。

	学級活動(2)	学級活動(3)
	<p><b>学級活動(2)は現在の生活上の課題を扱います。うまくできていないことをできるようにするために、改善の視点で考える活動です。</b></p> <p>～題材例～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちのよいあいさつ</li> <li>・なくそう忘れもの</li> <li>・男女仲良くしよう</li> <li>・地震にそなえて</li> <li>・バランスのよい食事</li> </ul>	<p><b>学級活動(3)は今行っていることと将来をつないで考え、その意義を理解し、意識的に努力し陽とする視点で考える活動です。</b></p> <p>～題材例～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇年生になって</li> <li>・〇年生に向けて</li> <li>・夏休みを充実させよう</li> <li>・上手な学校図書館の使い方</li> <li>・進んで取り組む自主学习</li> </ul>
つかむ	「学級全員に共通する問題とは何か」をしっかりと受け止める。	
さぐる	原因を追究し、解決への意識を高める。	これまでの自分を振り返り、自分のよさや可能性に気付く。
見つける	その問題を解決するための方法について、みんなで知恵を出し合い考え合う。	
決める	話し合ったことを参考にして、自己の努力目標や実践方法を決める。(意思決定)	



「さぐる」段階で、(2)では解決に向けて、**原因を追究します。**(3)では、**自分のよさや可能性**に気付くことが大切です。

# なりたい自分に向けて努力する学級活動(3) ～後期の目標にキャリア・パスポートを生かす～

「キャリア・パスポート」とは、子どもがキャリア教育に関わる諸活動について、学級活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるように工夫されたポートフォリオのことです。

「キャリア・パスポート」の実践は、作成したカードを記入すること自体に目的があるのではなく、子どもを成長させるための手段であることを学校として確認することが大切です。ここでは、後期の自分のめあてを立てる学級活動(3)の授業での「キャリア・パスポート」の生かし方を取り上げます。

## ～学級活動(3)の学習展開(例)～

事前

キャリア・パスポートに前期の振り返りを記入しておきます。(右例は4段階評価と振り返りを記入)

つかむ  
課題の把握

振り返りの項目ごとに学級の平均値を出して資料として提示し、自分の振り返りと比べ、よさや課題をつかめるようにします。

さぐる  
可能性への気付き

これまでの日常の写真や映像を活用し、教師が捉えた児童の取組の様子を可視化します。「頑張っていたこと」「頑張っていたけど、もう少しなところ」を交流しながら、「もっと○○してみたい!」という思いを膨らませていきます。

見つける  
解決方法の話合い

「後期になりたい自分」を見つけます。小グループ(適切な距離とマスクを着用)や学級全体で話合いを通して「なりたい自分」を追求するために、できることなどを広げていきます。より具体的な行動になるよう話し合います。

決める  
個人目標の意思決定

自分に合った具体的な個人目標や実践方法を決め、後期の目標を立てます。(意思決定)後期のキャリア・パスポートに記入し、実践を積み重ねます。

年	組	前期	名前
○前期の目標			
【あいさつ】	□□□□□□□□	【体カづくり】	
① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
【○○○○○クラブ】	【学 年 □ □ □ □ □ □ □ □】	【○○○○○委員会】	
① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
【仲良し】	□□□□□□□□	【学 習】	
① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	

・で値が4までぬります□□□□□□□□・まあまあで値が3までぬります  
・おぼろげで値が2までぬります□□□□・で値が1までぬります  
前期を振り返って

# 指導要録における特別活動の評価

## 各学校ごとに評価の観点を設定する

平成31年度中教審教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」において、評価の観点について特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく**各学校が評価の観点を定め**、指導要録にも記入することを示しています。

児童の実態と育てたい力を踏まえて設定する



学習指導要領に示す特別活動の目標や、学校として重点化した内容を踏まえ、例えば以下のように、具体的に観点を示すことが考えられます。

## 指導要録に評価の観点を記載する



指導要録の「特別活動の記録」の**観点の枠**の中に、各学校ごとに設定した観点を記入します。4内容（学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事）共通の観点を設定します。

※観点の変更がある場合を想定して、余白を設けておきます。

特別活動の記録							
内容	観点	学年					
		1	2	3	4	5	6
学級活動	○よりよい生活を築くための知識・技能						
児童会活動	○集団や社会の形成者としての思考・判断・表現						
クラブ活動	○主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度						
学校行事	余白						

※各学校で設定した観点を記入します。  
※学年に共通した評価の観点を設定します。  
※観点の変更がある場合を想定して余白を設けておきます。

### 【評価の観点(例)】

- よりよい生活を築くための**知識・技能**
- 集団や社会の形成者としての**思考・判断・表現**
- 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする**態度**

## 評価規準に達していたら○を付ける

内容ごとに「十分満足できる（活動の）状況にある」と判断される場合に○印を記入します。目標に準拠した評価なので、**いくつ○が付いてもよい**のです。つまり、後付けの評価ではなく**○が付くように指導する**のです。（指導と評価の一体化）

「状況」ではなく「活動の状況」と捉えるのです



「学習評価の在り方ハンドブック」には、右の表のような記載例が載っています。**評価規準（A規準ではなくB規準）に達していたら「十分満足できる状況である」と捉え、○印をつけます。**

特別活動の記録							
内容	観点	学年					
		1	2	3	4	5	6
学級活動	○よりよい生活を築くための知識・技能	○		○		○	
児童会活動	○集団や社会の形成者としての思考・判断・表現		○	○		○	
クラブ活動	○主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度				○		
学校行事			○		○	○	

小学校児童指導要録(参考様式)様式2の記入例(5年生の例)

# 特別活動Q&A

1 総合的な学習の時間で勤労生産的な活動を行えば、特別活動として勤労生産的行事を行わなくてもよいですか。

- ・ 「勤労生産・奉仕的行事」については、総合的な学習の時間で、ボランティア活動や栽培活動を行うことによって**代替することもできます**。ただ、「勤労生産・奉仕的行事」は「勤労の尊さ」と「生産の喜び」の両方を体得する活動なので、例えば、総合的な学習の時間における**学習活動の中で「生産の喜び」を体得できない場合には、学校行事において「生産の喜び」を体得する活動を別に行う必要があります**。



2 高学年については、職業体験を行えば、学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」に関わる指導や取組は行わなくてもよいですか。

- ・ キャリア形成と自己実現の姿につなげる**学級活動(3)の取組は大切です**。ここで求められているのは、「**職業教育**」ではなく「**キャリア教育**」です。キャリア教育とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育のことです。また、キャリア教育は、教育活動全体の中で基礎的・汎用的能力を育むものなので、「**夢をもつことや職業調べなどの固定的な活動だけに終わらない**」ようにすることが大切です。

※キャリア発達……自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく過程

3 各行事の取組カードをそのままキャリア・パスポートにしてもよいですか？

- ・ そのまま使用することも可能ですが、

○児童にとって、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなぐもの。

○教師にとって、その記述をもとに対話的に関わることによって、児童の成長を促し、系統的な指導に資するもの。

となるよう、**吟味が必要**です。

**全てを新たに一から作成しなくとも**、これまでの取組カードを生かしたり基盤にしたりしながら、**学校の実情に応じて、柔軟にこれまでのものを改訂して活用することができます**。

#### 4 働き方改革の一環として、キャリア・パスポートから『教師のコメント』をカットしてもよいですか？

- ・ 教師のコメントがあることによって、対話的な関わりにつながり、支援・指導の効果をより高めることができます。子どもの自己肯定感の高まりや、新たな目標に向かう意欲につなげていくことができます。

キャリア・パスポートは「大人（家族や教師，地域住民等）が対話的に関わるができるものとする」となっています。記述や自己評価の指導にあたって、教師が対話的に関わり、児童生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努めなければなりません。そのため、保護者からのコメント欄を設けることも、より望ましいです。



教師や家族の負担が過剰にならないように配慮しつつも、児童が自己有用感の醸成や自己変容の自覚に結び付けられるような取組にしていくことが大切です。

#### 5 学級の係活動において、「三密」にならないよう留意しつつも大切にすべきことはどのようなことですか。

- ・ この状況下においても、児童が十分に創意工夫して計画し活動できるよう適切に指導することが大切です。係活動と当番活動の違いを説明し、管理的な仕事や教師の補助的な仕事とならないよう、しっかり伝えなければなりません。その上で、話し合う場の工夫、内容の工夫、取組方の工夫を図ることが大切です。

また、状況が変化していくことも大いに考えられます。学校の節を意識しながら係の編成や見直しのタイミングを柔軟に考えていくとよいでしょう。

#### 6 係活動で、係を「〇〇会社」といった名称とし、株式会社に模した形で進める場合に、気をつけなければならないことは何ですか。

- ・ 「株主総会」といった他からの評価により強制的に解散させられたり、係内での役割を「役職」として序列を過剰に意識させることで上下関係が形成されたりしないように注意しなければなりません。

働くことの意義を理解することや、力を合わせて働いたり、学級や学校の生活の向上に貢献したりする喜びを実感させることが活動の大きなねらいです。それぞれの係の、そして一人一人の取組のよさや頑張りを互いに認め合っていくことが大切です。

7 教師が細心の注意を図り指導しながら子どもたちと清掃を行っていますが、特に注意する点は何がありますか。

- 児童への「学校の新しい生活様式」の確実な指導の下、その時の状況に合わせて対応していくことが大切です。清掃内容を簡略化する、全員に役割が当たるようにすることが必要です。清掃に限らず様々な当番活動や係活動は、働くことの意義を理解することや力を合わせて働いたり、学級や学校の生活の向上に貢献したりする喜びを実感させることが期待できる活動です。できる範囲でも進めていきたい取組です。



8 各活動の振り返りは、どのような視点で行うようにするとよいですか。

- 活動を縮小したり、これまでと形態や内容が変わったりしていても、集団活動を行っていることには変わりありません。自己の振り返りのみに留まることなく、集団との関わりについての振り返りも大切にしていきたいと思います。

大きく、①自分のこと ②友達のこと ③集団のこと ④今後活動に生かすこと の4つの視点を意識させて振り返りをするようにしていくとよいです。事前にも、目標やめあてを作成する段階でも4つの視点を教師がしっかり伝えるようにします。

自分の（個の）変容だけではなく、集団の変容についてもしっかり考えるようにしていくことも大切です。

9 児童会活動についてですが、低学年は児童委員会に所属していませんし、活動していないので指導要録では評価をしなくてもよいですか。

- 児童委員会に所属していなくても、評価を行い指導要録「特別活動の記録」欄にも記入します。

学習指導要領には「全児童で児童会を組織すること」「児童会の計画や運営は、主として高学年児童が行うこと」と定められています。低学年が児童会の計画づくりや運営に直接携わることはないと思いますが、児童会の一員として、各委員会からのアンケートに答える、イベントや集会などの取組に積極的に参加する等の児童の姿を日頃から観察し、その様子を評価に繋げていきます。